

福祉情報 おきなわ

Vol.100
2005.3.1



『私の家族』小倉明理さん(石垣市立大浜中学校三年)の作品

- 2 特集『介護予防』その効果と実践
- 4 社会福祉法人のチャレンジ「大信福祉会」
- 5 介護実習普及センター「はあとふるケア」
- 6 沖縄県共同募金会より

- 7 シリーズ活動最前線
「クーピーファッションアートグループ」
- 8 福祉人材研修センターだより
- 10 県民児協広報「ふくらしゃ」
- 12 インフォメーション

「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部として共同募金配分金を使用させていただいております。

編集・発行
沖縄県社会福祉協議会・沖縄県福祉人材研修センター・沖縄県民生委員児童委員協議会
〒903-8603 那覇市首里石嶺町4丁目373番地の1(沖縄県総合福祉センター内) TEL.098-887-2000 FAX.098-887-2024
http://www.okishakyo.or.jp/

Information

福祉情報 おきなわ

Vol.100

ご寄付ありがとうございました。

株式会社 富村商事
代表取締役会長 富村朝保 様……………1,020,000円
オリオンビール株式会社
代表取締役社長 仲村文弘 様……………1,610,000円
石川幸子 様……………100,000円
軍用地等地主会連合会 御中……………車イス48台
「小さな親切運動」沖縄県支部 御中……………車イス6台
住友生命保険相互会社沖縄支社 御中
……………タオル4,000本
沖縄県プレハブ建設業協会 御中
……………「生命いっぱい生きてみよう」チケット400枚

「全国失語症者のつどい沖縄大会」
第23回全国失語症者のつどい沖縄大会が次のとおり開催されます。
▼大会テーマ「はいさいチバリヨ」
▼日時 懇親会 6月11日(土) 18時～20時
大会 6月12日(日) 10時～16時
▼会場 大会 沖縄コンベンションセンター
懇親会 ラグナガーデンホテル
▼参加費 懇親会 1人9千円、大会4千円(但し、会員・県民割引あり)
▼連絡先 沖縄大会事務局
那覇市首里石嶺町43731
沖縄県総合福祉センター小規模団体室内
電話・FAX(098)8852665

編集後記

取材に行くと、きれいな花々が出迎えてくれる施設があります。きつと一生懸命育てている方がいるんでしょうね。今度、そうした方々取材してみたいものです。心あたりのある方は、情報をお寄せ下さい。
(伊)

連載された同名のコラムをまとめたもの。加藤教授が目にしてきた沖縄の福祉の現状が濃縮された一冊となっています。福祉を学ぶ学生や福祉現場で働く方におすすめです。金額は税込み1,050円。注文は各書店、もしくは地方・小出版流通センター(FAX0333356182)まで。

参加申込み 近畿日本ツーリスト沖縄
電話(098)8677111
申込締切 4月27日(水)
沖縄大学加藤彰彦教授が著書出版
「おきなわ福祉の旅」



著者の加藤彰彦氏



表紙の絵
タイトル:『私の家族』
制作者:小倉明理さん(石垣市立大浜中学校3年)

「家族の絵」というテーマ、幼い頃に家族でピクニックに行った時の様子や雰囲気を思い出しながら描きました。今では忙しすぎる両親ですが、幼い頃には良く遊んでもらいました。温かい雰囲気を出すことを目標に明るい色でまとめました。

特集

「介護予防」～その効果と実践

「国民の共同連帯」の理念の下にスタートした介護保険制度は開始から5年がたった。予想を超えて増大する介護給付費に対応するため、制度の見直しに向け検討が進められている。

そこで注目を集めているのが「介護予防」の考え方。生活が不活発になって心身機能が低下する「廃用症候群」による介護状態を防ぐのがその目的である。県内における介護予防にむけた実践をレポートする。

制度見直しと

介護予防

介護保険制度の見直しでは「予防重視型」への構造的な転換を目指し、軽度の要介護者に対して介護状態の防止を目的とした「新予防給付」が適用される。

具体的メニューとしては、既存の訪問介護（ホームヘルプ）や通所介護（デイサービス）に予防効果を持たせた「予防訪問介護」や「予防通所介護」に加え、筋力向上トレーニング（筋トレ）や転倒予防訓練、口腔ケア等が挙げられる。これらは、高齢者の介護状態の発生や悪化を予防し、生活の質の向上の実現を図るねらいがある。同時に将来の介護給付費の抑制も期待されている。

筋力アップで

健康づくり

那覇市にある武内整形外科。ここでは14年前からトレーニング施設を設け、患者のリハビリや一般利用者向けに筋トレを行っている。筋肉を増やすことで、バランス能力や日常生活動作能力が上がり、健康で活発な生活が可能になる。武内正典院長は、「正しい筋トレによって、何歳からでも筋力向上は可能。身体面だけでなく精神面の安定にも効果がある。人生をより楽しむことができ、生活全般にハリが生まれる。」と語る。「介護予防の」一番のねらいは、健康を基礎として、その人の人生を豊かにすること。」と強調した。

利用者の声

医院の上階にあるトレーニング施設



西原町上原地区の転倒骨折予防教室の様子

生きがい型 デイサービス

各自治体で実施されている「生きがい対応型デイサービス」（生きがい）も介護予防に大きな役割を果たしている。

那覇市石嶺の集会場では週1回、市の生きがい対応型デイサービス（願寿家へがんじゅうや）事業が実施されている。取材に行った日は体操教室、ぬり絵、昼食などが行われた。住み慣れた地域で、顔見知り同士が集い、一緒に体を動かしたり、おしゃべりをしたりすることで、おのずとストレス解消や介護予防につながっている。

那覇市社協の調査によると、デイサービス利用者一人あたりの医療費が市



ラップの芯を手にリズム体操を行う利用者

総合的な 介護予防システム

このように、現在、県内では介護予防にむけた取り組みが各地で展開されている。それでは、今後はどのように介護予防が展開されるのか。

介護保険制度の見直しでは「総合的な介護予防システム」を構築することを目指している。具体的には、①介護予

を利用する真栄城兼徳さん（74）、百合子さん（73）夫妻に話をうかがった。
北谷町に住んでいる真栄城さん夫妻は筋トレには月10回通っている。夫の兼徳さんは「始めて一年が経ち、体力がつ



専用の機器でトレーニングする真栄城夫妻



いた実感があります。階段の上り下りが楽になり、睡眠もとやすくなり、食事もおいしい。」と笑う。妻の百合子さんは「外出する機会も増え、ストレス解消になっています。」と毎回の運動を楽しみにしている様子だ。筋トレと聞くと「キツイ」をイメージしがちであるが、専用の運動機器と丁寧なスタッフの指導で、安心して運動に取り組んでいる姿が印象的だった。

転倒骨折予防教室

西原町では地域の高齢者を対象に「転倒骨折予防教室」を実施している。高齢者が転倒により骨折すると、完治するまでに、筋力が低下し、寝たきり状態に陥るケースが少なくない。教室では転倒の要因を理解し、その防止策を学ぶことや、足腰を鍛える簡単な運動を覚えることで転倒予防の意識づけを図っている。事業を受託する西原町社協の職員、玉那覇美加さんは、「専門家のアドバイスを聞いて、実際の生活に取り入れるなど、住民の方の反応も上々です。」と効果を語る。「転倒骨折予防教室」は本年度、県内34市町村で実施されている。

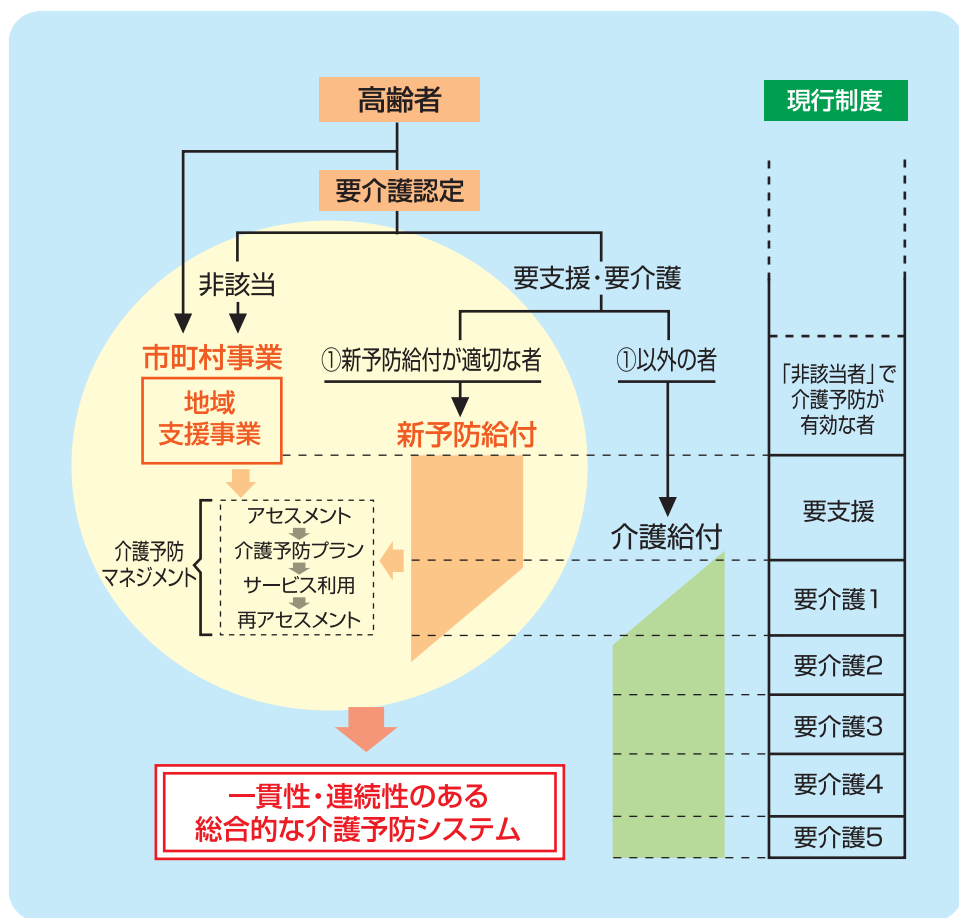
防マネジメントの確立、②市町村事業の見直し、③新予防給付を創設する。「老人保健事業」や「介護予防・地域支援合い事業」が見直され、市町村が責任主体となり、予防サービスの提供・調整を行うことになる。（図参照）

最後に

長寿県沖縄においても高齢者介護は

社会全体の問題としてこれからも向き合っていくなくてはならない。介護を必要とする方のケアはもちろんのこと、介護状態に陥らないための取り組みを地域で支えていくことが求められている。そして、「自分の健康は自分で守る」意識を各々が持ち続けることも忘れてはいけない。「介護を予防することはどの世代からスタートさせても早すぎることはない。

図1:総合的な介護予防システムの確立



社会福祉法人のチャレンジ

新たな社会福祉法人像の構築

「社会福祉法人 大信福祉会」

福祉オンブズマン制度の導入

「利用者の「想い」を実現するために」

一、法人・施設の概要

法人名 社会福祉法人 大信福祉会
理事長 島袋 武夫
事業所名 知的障害者更生施設ゆいの郷
施設長 仲宗根 幸隆
住 所 沖縄市字古謝1031-1
TEL 098-93817000

二、地域貢献実践の概要

事業内容

利用者の権利擁護を目的に月1回4名の福祉オンブズマンが施設へ訪問、利用者の苦情(想い)を聴き代弁する。また施設側の対応の適切性を第三者の立場から見守る。

開始年月日

平成15年9月28日

三、実践に至った経緯と現状、課題

福祉制度が、サービス事業者と利用者の「対等」な関係に基づく「契約」制度へ転換し、利用者主体が求められる

中で、自己決定が困難な方々への権利保障が大きな課題となっている。そんな中、「利用者が自分らしい生活を実現するために、想いや要望を声に出せる環境を整えることが不可欠だ」と思

った。」と島袋眞利子管理課長は当時を振り返る。きっかけは平成14年に県社会福祉士会の「おきなわ福祉オンブズマン」設立準備会のメンバーと共に「NPO法人湘南ふくしネットワーク」(神奈川県)の視察に同行した際、あくまでも利用者の立場に立つ理念や活動内容に大きな衝撃を受け、福祉オンブズマン導入の必要性を感じたことである。

導入にあたりゆいの郷では、保護者や地域住民等を対象に講師を招いての学習会を開催した。「外部から施設の評価をされるのではないか」等の様々な誤解を払拭し、「利用者中心の支援」という趣旨(メッセージ)や活動内容について施設を超えた周囲の理解を得ることができた。また、利用者にとって最も身

近な職員の意識改革を図るため、法人で任命されたオンブズマン協力員2名と共に「おきなわ福祉オンブズマン設立準備会」の勉強会へ参加。その内容を職務会で報告することで徐々に全職員の共通認識が図られていった。

ゆいの郷の正面玄関を入ると、オンブズマンの顔写真と次回の相談日時を記載したカラフルなパネルが設置されている(写真)。利用者もオンブズマンの訪問を楽しみにしており、現在ではさまざまな意見・要望が出てくるようになった。その要望は「自分の好きなお菓子を選んで買いたい」「足が悪いので廊下の手すりをつけて欲しい」など。今までの聞き流していたことにも改めて「はっ」とする瞬間があり、職員の「気づき」へとつながっている。普段、職員が一人の利用者に対しゆつくり接することが難しい中、オンブズマンは利用者と同じく同じ時間・空間を共有することができる。利用者にとって「自分が大切にされている」と実感できる環境は何より求められる。



載したカラフルなパネルが設置されている

活動が根付きつつある中で、今後の課題について島袋さんは、「例えば、言語によるコミュニケーションが難しい、重度の利用者への対応については、目の動きからその想いをくみ取るといったオンブズマンの力量も必要です。今後は法人とオンブズマン双方の協働の下、全ての利用者の想いを引き出せる環境づくりが求められてくるのではないだろうか。」と話した。

四、今後の展望

オンブズマン制度の浸透により利用者自らが自分らしい生活について考え、決定し、想い(要望)を表現することが自然とできるようになった。今後は、「誰もが住み慣れた地域で自分らしい生活を」という施設支援から地域生活支援へシフトする流れの中、利用者のエンパワメントを引き出す原動力となることが期待される。

五、今回のチャレンジに思う

大信福祉会が目指すものは「利用者中心の支援」。県内において社会福祉法人からはじまった福祉オンブズマン制度への取り組みと理念は、利用者の権利擁護という観点から全ての福祉サービス事業者が認識すべきモデル的存在である。「二人ひとりの想いが実現できる社会へ」その第一歩は私たちに大きな示唆を与えてくれている。

地域の一員として社会参加できる地域づくりを

「精神障害者地域生活支援ネットワーク」研修会 5地区で開催

これまで社会福祉協議会では、精神保健福祉の取り組みは「医療・保健の分野」という意識が強く、数ヶ所の杜協でのみ精神障害者の居宅介護事業等を取り組んでいるに過ぎなかった。

しかし、平成14年度から精神保健福祉に関する業務が市町村に移管されたこと、翌15年度からは厚生労働省も全国に7万2千人ともいわれる社会的入院患者の退院・社会復帰へ乗り出したことから、精神保健福祉施策は「入院治療中心」から「地域支援中心」へと大きな変化をみせた。そうした中、精神障害者を地域で支えるための基盤整備の必要性が注目され、市町村杜協にも大きな期待が寄せられてきている。

今回、本会では全国社会福祉協議会からの助成金を受託し、県内9ヶ所の精神障害者地域生活支援センターをはじめ関係機関、団体の協力を得て、精神保健福祉における社会福祉協議会の役割と連携について考える研修会を県内5地区で開催した。参加対象は市町村社会福祉協議会職員や民生委員、児童委員。

研修内容は精神保健福祉の現状に

ついでに講義、「当事者」「家族会」「職親事業所」「小規模作業所」「病院」「地域福祉権利擁護事業」関係者を交えたミニシンポジウムの他、ワークショップを開催。ワークショップでは「これからの市町村杜協ができること」について意見を申し合った。

研修会の参加者からは「現在はいいい薬がでている」「症状によつては薬を多く服用しないといけないこと。その薬の副作用により、生活のしづらさがでくる」「精神保健福祉活動について理解することができた。精神障害という病気に対する理解、彼らの社会復帰への支援、啓発普及活動の必要性を強く感じた」「作業所、グループホームなど受け皿づくりが必要」「職親事業所についてもっと知りたい」などの意見があった。

今回の研修は、精神障害者への地域支援について求められていること、杜協ができること、果たす役割について改めて認識する機会となった。

今後は、市町村杜協の具体的な取り組みについて、関係機関・団体の協力を得ながら検討し、推進していく方向である。

介護実習普及センターはあひるのケア

ちょっとしたこと

車いす(福祉用具)の変化「従来型は疲れるよ〜」

＜普及型＞



(図3)

＜従来型＞



(図2) シーボスエレフ



(図1-2) エクスジェルサポートセット



(図1-1) 低反発性クッション

実際に使用しての注意
お尻の部分に何か工夫する方法を考えなければ?

皆さん、考えて下さい

①お尻の部分に敷くクッションを利用する。

ショッピングセンター等にて販売されている商品Ⅱ低反発性ウレタンクッション(図1-1)

(注意) やわらかすぎるので少し固めのシートも下に加える。

福祉用具として取り扱っている商品・材料Ⅱ低反発性ウレタン(図1-2) ②座位保持安定用クッションを利用する。(図2)

・左右のバランスを安定

・お尻の部分の安定

③標準装備された車いす(図3)

実際に使用しての注意
お尻の部分、背中部分に標準装備として装着されている。クッションが装着されていても、座位保持に気をつける。

【お問合せ】 沖縄県介護実習・普及センター 電話(098) 882-1484

今回は障害者アートの支援にかかわる内閣府NPO「クーパーファッショナートグループ」(理事長 仲本薫氏)を紹介する。名称のクーパー(Cooper)には仏語で「中間」という意味がある。人と人の中間で接点となり、お互いの持ち味を引き出して新しいモノを生み出す。まさに「クーパー」な活動を展開中である。

活動開始当初から作品展を実施。県内を回って障害者の制作した作品提供を呼びかけた。「障害者本人や親も気づいていない豊かな感性と新しい才能を発見することで生きる喜びを感じてもらえたら。私達はそのきっかけを提供したい。」と事務局長の与那城さんは語る。

クーパーへの賛同者が増えるにつれ、活動の幅も広がりを見せる。行政や民間団体と協働してのイベント開催や作品の

沖繩の心を 世界へ発信 「クーパーファッショナートグループ」 アートグループ



展示されたビッグアート

紹介を幅広く行っている。障害者の描いた絵を大きな布に描き移す「ビッグアート」という手法では障害者、健常者、プロアーティストがコラボレートして制作にあたる。これら作品は県内各地で展示され、多くの人の目を楽しませてきた。

また、全国では東京大学や京都大学の学生が中心となつてクーパーの理念を発信する活動を展開し、その認知度と評価は確実に高まっている。こうした全国区の活動が認められ、04年には内閣府NPOの認証を得た。

昨年は宜野湾市で「クーパーファッショナート」の「ドームアート」を開催。

1300名のボランティア、多数の企業や団体の協力を得、200枚余のビッグアートをつなぎ合わせ、40m四方の二つのアートを完成させた。

「色々な方に支えられて、ここまで来れた。これからも人と人とのつながりを大切にしていきたい。」と与那城さん。今後、クーパーの目指すものとして障害者理解の浸透とノーマライゼーション社会の実現を挙げた。「沖繩の心を全国、そして世界へ」。クーパーの挑戦は続く。



アート制作の様子

赤い羽根共同募金 〔10月1日～12月31日〕

実績額2億868万2143円
達成率は87.6%



パレット久茂地前での街頭募金活動

10月1日から12月31日までの3ヵ月間、「地域の福祉、みんなで参加」をスローガンに、赤い羽根共同募金運動が県内各市町村共同募金会(支会・分会)で実施されました。皆様からいただきました募金は、それぞれの地域の社会福祉事業に役立てられます。

平成17年2月4日現在の実績は次のとおりです。

実績額 208,682,143円
目標額 238,200,000円
目標額達成率(目標額に占める実績額の割合) 87.6%

新潟中越大地震災義援金
1千88万7449円を被災地へ

去る10月23日に発生しました「新潟県中越大地震」に伴う災害に対しまして、沖縄県共同募金会が呼びかけをしましたところ、たくさんのご協力をいただきました。

皆様からお寄せいただきました災害義援金は、新潟県共同募金会を通して被災者へ配分されることになっています。

沖縄県共同募金会取扱額
272件
10887,449円
送付先及び送金額
新潟県共同募金会
10887,449円

歳末たすけあい運動 〔12月1日～12月31日〕

寄付金品864万円余



沖縄明治乳業(株)、オキコ(株)贈呈式(県総合福祉センター)

会に集まった寄付金品は、864万円余(1月24日現在)寄せられ、12月24日に各市町村社会福祉協議会及び沖縄県共同募金会を通して、運動の趣旨にそつて住民参加型在宅福祉サービス団体(共同作業所等)や地域福祉活動団体(58ヶ所)の活動支援と、県内11離島町村の二人暮らし・寝たきり老人、児童及び心身障害児(者)の方々に配分しました。



愛ちゃんと 希望くん
沖縄県共同募金会
TEL.098-882-4353
FAX.098-882-4270
<http://www.okishakyo.or.jp/html/kyoubo/>

福祉施設経営相談 (労務管理編)

Q 仕事をしない者、勤務状況の悪い者、方針に従わない契約職員を、法律上、当然に、更新拒否できるのでしょうか。

A 期間を定めた契約であっても、何度も反復更新した結果として実質的にみれば期間の定めのない契約に転化している場合(転化説、あるいは、その契約の性質上、労働者側が、契約が更新されるものと期待することが合理的であると認められる場合)期待権説には、期間満了のみで契約を打ち切ることは許されず、解雇に準じた正当な理由が必要であるというのが日本の判例です。契約を結んだ時点で、期間設定について当事者でどのような趣旨として理解していたかということですが、1年契約の締結時に、①1年契約とした以上は原則として1年経過

時点で労働契約は終了とした場合、②1年契約とした以上、更新するという保障はないとした場合、③特別に問題がない限り更新するとした場合：等が考えられます。もし、当事者の意思が③とするのであれば、仕事をしない者、勤務状況の悪い者、業績に貢献しない者を更新拒否したいと考えているとは言っても、解雇の正当事由に該当する場合、または、それに準ずる場合であることが必要であり、安易な更新拒否は許されない事になります。しかし、職員には職務専念義務があり、それを守らない以上何らかのペナルティー(解雇を含む)を課すべきでしょう。仕事をしない者にペナルティーがないのであれば、職場の風土は落ちていくばかりです。規律を正すために、しっかりとした就業規則になっているかどうか、今一度ご確認ください。

Q&A

監修▼福祉施設経営支援事業専門相談員
社会保険労務士 江尻育弘

沖縄県社会福祉協議会
経営者支援室
電話098-887-2037(直通)
FAX098-887-2043

〔労務管理に関する〕相談は
江尻育弘(社会保険労務士)
江尻事務所
那覇市金城5-1-14 エクセルビル2F
電話 098-857-1107



ソウエルクラブ おきなわ

コナミスポーツクラブが 沖縄にやってきたぞー!!

那覇市にオープン・会員特別価格でご利用可能!!

あのコナミスポーツクラブが、那覇市(天久)に2月5日にグランドオープンしました。ソウエルクラブ会員は、会員特別価格として入会できます。

コナミスポーツクラブ

1. 入会金無料。
2. 都度利用制の場合、3月末まで2,100円で利用できます。(一般の場合3,670円)
3. 契約利用制の場合、月会費6,825円(月会費一ヶ月分以上、情報管理料5,250円が必要)で使い放題。
※一般の方だと、月会費9,975円なので3,150円もお得です。
4. 会員の家族の方(被扶養者)も、会員証と身分を証明できるものを提示することで特別価格にてご利用できます。
5. 4月からは契約内容変更に伴い、月会費7,875円になります。

ご利用の際は、下記にてお問い合わせ下さい。

- ◎コナミスポーツクラブ沖縄 TEL:098-941-5736
 - ◎コナミスポーツ情報ダイヤル TEL:0120-919-573(平日/9:00~18:00)
- URL:<http://www.konamisportsclub.jp/corp/index.html>



フルコースを満喫!!

「グルメを楽しむつどい」テーブルマナー教室

ソウエルクラブおきなわでは会員皆様の交流をさらに深めていただくとう会員交流事業「グルメを楽しむつどい」(テーブルマナー教室)を県内計5地区の一流ホテルにて開催しました。

豪華な料理をいただきながら、講師より基本的なテーブルマナーを学んだり、冗談を交えたトークなどで、会場はとてにこやかな雰囲気でもまれていました。

参加した会員からは、「おいしいワインと料理に囲まれて幸せでした」、「テーブルマナー教室ということで少し身構えていましたが、楽しく参加できました」などの声があり、幸せな時間を過ごしていました。



一流料理を堪能、マナーもばっちり。

沖縄県福祉人材研修センターだより 福祉の職場説明・面接会「福祉の就職総合フェア2005」開催

福祉の仕事に興味をもっている方や福祉の仕事に就職しようとする方を対象にした「福祉の就職総合フェア005」が、2月9日(水)に沖縄コンシヨンセンター会議場で開催されました。社会福祉施設職員との直接面談、福祉の職場や各種資格の情報提供、沖縄県福祉人材研修センターへの登録などに県内外各地から一般・学生あわせて約550人の参加がありました。



会場には多くの参加者がつめかけた



求人の説明に耳を傾ける参加者

では、採用を前提とした求人面談を行い、求職者は積極的に施設と面談を行っていました。

総合相談コーナーにおいては、沖縄県看護協会、那覇公共職業安定所、沖縄公共職業安定所、沖縄県福祉人材研修センター、名護市福祉人材バンクによる求人情報、福祉の資格取得のための情報提供などがありました。参加者からは「初めてこのようなイベントに参加し緊張したが、いろいろな施設の方の意見を聞くことができ勉強になった」「丁寧な受け答えで相談しやすいかった」などの意見がありました。今回で協力をいただいた各施設・団体の皆さんありがとうございました。

インターネットを利用して
求職活動ができるのを
ご存知ですか?

沖縄県福祉人材研修センター・バンクは中央福祉人材センターホームページの開業に伴い、インターネットによる職業紹介「ネット紹介システム」を開始しています。より広い範囲(全国)での求職活動が行えるようになりました。福祉の仕事に就きたい方、ぜひ一度アクセスしてください。



<http://www.fukushi-work.jp/>
登録料等は一切かかりません。



Click!

読まれる記事を作りたい
スキルアップで紙面充実
「広報講習会」

12月6日(8日)までの3日間、東京厚生年金会館(東京都)で「社会福祉施設等広報講習会」が開催されました。これは、ソウエルクラブが毎年主催するもので、全国3ヶ所の会場で実施されます。沖縄県からは鶴生の叢の橋川純二さん(写真左)と沖縄県社職員の計2名が参加。広報紙づくりの基本から応用までをみっちり学びました。小橋川さんからは「素人の状態だったのでとても勉強になった。読まれる記事を作りたい」と感想をいただきました。



紙面編集ではメンバーと真剣に討議



県民児協
広報情報誌
一第6号一



暮らしに福をもたらす人

沖縄県民生委員
児童委員協議会
事務所
沖縄県総合福祉センター
連絡先
TEL. (098) 882-5813
FAX. (098) 882-5814

わたしのまちの民児協 名護市第四民児協

地域の概要

名護市第四民児協は南は恩納村と境界をなす喜瀬区、西は名護漁港、市役所、中央公民館を擁する港区、北は羽地地域と境界をなす大北区、以上十一ヶ所の字からなり、三高校、三中学校、四小学校、二大学を有しております。地域の大半が景勝の名護湾に面し、桜の名所名護城、ピンポンガジュマル等名所旧跡も多く、また、東江区・城区・大東区・大中区は名護市の中心街をなし、ビル工場、銀行県立病院、保健所等があり商業経済文化の中心地になっています。

名護市第四民児協は昭和六十二年に第二民児協から分離し十八年目になるが、振興の意気に燃えて、定例会、研修、専門福祉部会、地域福祉活動が活発です。

学校訪問・懇談会を通して 把握できたこと

複雑多様化する児童問題、児童をとるべく環境の変化に的確に対応するこ

とを目的に主任児童委員を中心に学校、関係機関や団体との懇談会(情報交換会)を開催しました。会では次に挙げる課題が話し合われ内容の濃いものとなりました。

1. 複合問題を抱えた家族が増え対応が難しく、一人で抱え込む傾向にある。
2. 学校生活・集団生活になじみず不適応な子どもが多くなっている。
3. 学校からの情報が具体的にない。また、細かい部分にまで至っていない。
4. 各学校にスクールカウンセラーの専門職員が配置されて、指導面で充実し、効果をあげている。
5. 不登校児については地域の民児委員が在宅確認し連絡する。
6. 準要保護認定にあたり学校との調整、保護者等の連絡(調査)
7. 不登校に対する取り組みやネグレクト、児童虐待防止に向けて、子どもの視点を意識する。また、子育て家族の立場に立つた児童委員活動の展開。

福祉ネットワーク活動 世代間交流事業への取り組み

名護市第四民児協近隣区では、その地域の特性を生かした世代間交流活動があります。たとえば、A区では朝、子ども達の登校時に合わせ「あいさつ運動」の展開、また、子ども会と一緒に通路や学校周辺の清掃を行い、後に食事会、レク等と楽しく交流しております。B区の活動としては、夏休みに近くにある川の源流の散策を老人会、父母、子ども会と自然に親しむ会の催し、地域周辺や川をきれいにしようと「ゴミ、空き缶拾いの清掃」を世代を交えて行われた実践報告は多様であります。

これらは、児童週間や夏休みに集中していますが、さらに輪を広げ明るい地域作りに寄与していけたらと思います。また、諸々の支援や施設を生かし、高齢者のパワーを青少年健全育成に役立てる事業の創出もしていきたいと考えています。



老人施設訪問



遊具づくり

区の福祉諸活動は、福祉推進委員のネットワークが柱になっています。班毎の福祉委員は「ボランティア」で、予定活動で急に欠員が出た時や応援がほしいときなど、ネットワークの機能が効いています。納涼祭ふれあいの集い、食事会(ミニデイサービス)時の雰囲気は毎回活気に満ちています。また、市の行政、福祉関係機関から太い線を通し、点線を通して全ての班に行き届きます。

昨今の世相を反映している青少年の非行・凶悪犯罪や児童虐待がクローズアップされていますが、私たちに課せられた深刻な問題といえましょう。明るく、健やかな地域社会づくりに私たちの活動は、地域のエネルギー源になれたらと思います。

福祉専門部会

名護市第四民児協には四つの部会老人福祉部会・児童福祉部会・心身障害者部会・生活福祉部会があり、三十二名の委員で運営されています。また、第四民児協福祉専門部会独自の事業を計画し視察研修、関係機関等の研修会を開催し、定例会において報告しております。



部会研修施設訪問の時

退任の節目にあたり

名護市第四民生委員

児童委員協議会



前会長
具志堅 初江

昭和五十五年十二月委嘱を受け昨年十二月三十日付で定年退職となる、

事務局レポート

毎年この時期に那覇社協・小緑第二民児協の主催で行われる「ふれあい昼食会」が一人暮らしの高齢者を対象に小緑自治会館で行なわれた。民生委員児童委員が中心となって地域の高齢者と呼びかけ、今回も三十五名が一年ぶりに元気な姿で再会した。会では昼食をいただきながら余興も進められていき、カラオケや民生委員音頭、

地域の連帯、協働を実感 小緑第二民児協ふれあい昼食会

である。また、生きがいの発見、痴呆防止にもつながる。今回、民生委員児童委員の皆様の活動を間近に見て体験することができ、地域の人々と関係機関が相互の特性を活かし協力し合って住み

特に全員での合唱では皆さん笑顔で歌い、若々しく見えた。

高齢者層の社会的連帯感が希薄になつてきている現在、このような取り組みは地域の人々とふれあう重要な機会

通じて実施する児童健全育成「全社協助成事業は、委員の皆さんの知恵と協力の結集で成し遂げた思い出に残る実り多い大きな活動のひとつでした。

感謝し、ご指示くださいました地域の方々、ご指導、ご協力くださいました関係機関・仲間の皆様にご心からお礼申しあげます。充実した民生委員児童委員活動二十四年間の貴重な体験、忘れることの出来ない思い出の数々は生涯の宝物として大切に、今後とも健康維持に心がけボランティア活動が続けて行けるように頑張ろうと思います。

最後になりましたが皆様方のご健勝と益々のご活躍を祈念いたします。

(平成十七年 二月十日)

よいまちづくりを進める「協働」の意識を実感することができた。すばらしい会に参加させていただきありがとうございました。

(事務局 玉村)



楽しいひと時～